

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム元気村
(ユニット名)	元気村 I
所在地 (県・市町村名)	愛知県 半田市
記入者名 (管理者)	中村 宗子
記入日	平成 20年 9 月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・グループホームの理念と法人理念が別々に設定されている。 ・理念は「ゆったり自由に笑って過ごせるように」とグループホーム独自の理念を作っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・「ゆったり自由に笑って過ごせるように…」の理念を表記し、入り口に掲げ日々意識付けられるよう取り組んでいる ・相手の立場に立ったサービス ・信頼ある安全で良質なサービスの提供	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・ご家族には定期開催する家族会で理解うい得られる様話している ・地域の人々へは、立地の関係で難しい ・定期的に運営推進会議を開き、地域の商店・市代表との交流情報交換をしている	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・商業地域で隣接近所は大型スーパーマーケット等の環境から難しい	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・商業地域で隣接近所は大型スーパーマーケット等の環境から難しい	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・商業地域で隣接近所は大型スーパーマーケット等の環境から難しい ・なかなか入居者と地域の方々との交流することがなく、地域貢献まではできない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・ハード面(建物では、すぐに取り組めるものは出来ているが、なかなか工事を要するものに関しては出来ておらず。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・評価が出たすぐに家族、職員共に報告、話し合いが行われている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・管理者が代表で行き来し、情報提供し話し合いサービス向上に向けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・なかなかできず、家族へ一任している。 ・9月20日成年後見制度についての講習会に参加した		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者の身体の変化に常に気を配り職員も注意深く見ている ・研修等への参加、虐待防止について学習、情報交換提供している。 ・努めている ・利用者様の接し方には十分注意を払って接している	○	・高齢者虐待防止関連法については、もう少し学べる機会がほしい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・管理者、ケアマネ等により十分な説明、理解を得た上に利用がされている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族や利用者様からの意見には出来るだけそぐえる様な対応をしている</p> <p>・利用者様から直接の意見反映は難しいため定期的に開催する家族会や訪問いただく折々にご要望、ご意見を伺い反映させている</p> <p>・意見、不満、苦情については、その都度お話を伺いよく話しあうよう</p>	<p>○</p> <p>・意見、不満、苦情等(利用者様の)もう少し時間を掛けてお互いに納得がいくよう話し合う機会を持ちたい</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>・すぐに連絡を入れる等して対応についてやその後についての報告もしている。</p> <p>・毎月、書面でも掲載、電話報告をし、情報交換している</p> <p>・健康状態は変化がある都度、即ご家族にご連絡している。</p> <p>また、3ヵ月ごとの家族会でケアプランを毎月の文書によるお知らせ「元気村メール」で暮らしぶりを報告している</p>	<p>○</p> <p>・家族の方には、必ず連絡が取れる先を教えていただく</p> <p>・3ヶ月に一度の家族会を行っているが参加していただけるご家族が少なく様子を伝える機会が少ない</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・来所時に意見箱にて苦情などを承っている。</p> <p>・意見、不満、苦情が発生した時点で職員間の申し送りやミーティングで反映されている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・意見を挙げることによって改善されていることもある。</p> <p>・簡易的なものに関しては、すぐに対処、反映されている。</p> <p>・毎月1回ミーティングを行っている</p>	<p>○</p> <p>毎回職員の参加人数が少なく、各問題点をもう少し皆で話し合って行きたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・なかなかできず。</p> <p>・出来ていない</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・できていない</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・書面にてチェック項目作成にて、トレーニング 新人育成 に対する取り組みが来ている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者間の交流はない	○ ・人材不足であり、疲れすぎないようにしなければいけない ・他の施設を訪問したりして、運営・ケアの内容といろいろ勉強できる機会を作っていく
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・特にない	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・半年に一度自己の評価、分析を行い、職員個々のケアの目標を立てている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・本人と利用前に1度は必ず、面談の時間を設け、利用に際し、不安がなるべく小さくなるように努めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ご家族からの情報によって利用者様への接し方の参考にしている ・担当者との交流、情報交換をし信頼を得ている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・法人全体を通し、利用される本人にあったサービスが利用できるようにケアマネや本人、ご家族と相談をしながら、見極めるようにしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ホーム内の見学、説明がされている。 ・ある程度、利用者様に自由に過ごしていただけるよう努めている	○	・強制することなく、利用者様の気分に合わせた介護を心掛けているが、時には動いてくださらなければ、困る場合もあ臨機応変に行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・レクや会話を通して学ばせてもらえることもある。 ・接遇に関して学んだり、反省したりしながら支えあう関係が築け、利用者様から学ぶ気持ちを常に持てるよう心掛けている。 ・利用者様と会話を楽しみながらの介助を心掛けている	○	・すぐに動いてくださらない利用者様には他の職員がトライする、時間を置いてもう一度声掛けしてみる等やり方を変えて行っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族会の実施(3ヶ月毎)、「元気村メール」の発行(月に一度) ・来訪時には、出来るだけ利用者様の様子をお話するように心掛けている。 ・3ヶ月毎の家族会と毎月に書面に状態の変化を記入、定期的に家族と連絡を行っている	○	・ご家族との会話を今以上に増やし、共に支える関係を深めて生きたい ・職員の数が手薄なときもあり十分な会話が交わせないときもある。 日によっては人員の余裕があるときも欲しい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族会を開いたり、月報を送り関係が薄くなることのない様にしている また、必要のある度直接連絡をお取りしている ・ご家族が見えた時、近況を報告も含め会話をする事によりコミュニケーションを図っている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者様の意向を家族に伝えている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・イベントやレクを通し関わりが深まる様に声掛けをしたり、馴染みの関係が出来るのを支援している ・レクリエーション等できるだけ参加して頂き、利用者同士でお話出来る様努めているが、参加して下さらない利用者様も見える	○	・出来るだけ声掛けしてレクリエーション等参加していただいて、皆で楽しんでいただけるような環境作りに努めている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・実施していない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・定期的に検討している ・3ヶ月ごとケアプラン、マンスリーの更新		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・個人カルテに資料をファイルし確認できるようになっている ・アセスメント作成時に利用者様やご家族に伺っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日々の会話と観察を通して努めている ・日誌、カルテへの記載、毎日の申し送りで職員全員が把握できるようにしている ・往診や受診での結果報告を申し送りによって全ての職員に伝えられる	○	・難しい内容の状況等は責任者によって指示がされる
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・作成している ・3ヶ月毎の援助計画 毎月のマンスリーにて各利用者様担当者が定期的に考慮し、他の職員との意見交換も行っている ・毎月1に心情、身体変化の全ての変化を書面にて記載、少しでも変化があればチェック項にて見直し、3ヶ月毎に一度全員職員にて話し合	○	・援助計画の3ヶ月毎の見直し、毎月のマンスリーにて各利用者様にとってベストな生活状況を配慮できるよう心掛けている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3ヶ月毎(必要が応じたときはその時点で)の見直しを行っている。 ・3ヶ月毎の援助計画 毎月のマンスリーにて各利用者様担当者が定期的に考慮し、他の職員との意見交換も行っている ・家族会にて意見交換、現在の状況に応じた援助計画が出来ているか話している。	○	・援助計画の3ヶ月毎の見直し、毎月のマンスリーにて各利用者様にとってベストな生活状況を配慮できるよう心掛けている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・カルテと日誌、申し送りノートへの記録で反映させている。 ・必要な利用者様に対しては、定期的なリハビリなどを行っている ・毎日の流れに沿って記載	○	・その日の体調を考慮しながら、ほぼ毎日のラジオ体操
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・一階にある診療所である医療機関と連携しリハビリテーションの利用をしている。 ・リハビリ・病院受診・往診と要望があれば、必要と思われる時、すぐ支援できる体制である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・消防による防災訓練を実施している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・法人内のサービスを利用している ・シニアフィットネスやリハビリなど		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・実施していない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎月2回の往診、状態変化に応じ病院受診もしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・往診時に時々、長谷川式を行っており、その他の専門医に関してはご家族に対応していただいている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・定期的な訪問をする看護職員もおり、健康管理に努めている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・定期的疾患のある方に対しては、病院受診、定期的な往診もしている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・看取りについての基本指針が定めてある。 ・ご家族への「意向事前確認書」「看取り介護の同意書」を説明をしている ・ご家族の考え方の把握を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・基本姿勢について全職員が指示を受けている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・本人の性格を考え、一番良いであろう伝え方を考えている。	○	・ご本人に関わる全ての人への協力依頼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報保護、外部の方にも目が付かないよう配慮している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・生活リズムについても自己の時間でメリハリのある生活で、自己で決め出来ることの幅を広げる支援をしている ・本人の力に応じた表出を導けるよう努力している ・なるべく説明し、納得していただいてから行動するようにしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員の人数の関係で難しい	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・散髪のボランティアでしてくれている職員がいる	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・認知症が進んでいる人が多く、全員はできないが出来る限り共に片付けをしていただいている 食事作りに関しては、業者に委託している ・一部、利用者様と行っている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・おやつ時間は数種類の飲み物を用意し選んでもらっている。 ・水分、食事の割合を常にチェックし食事が取れないときは、果物をつけ目で見える楽しさ、盛り付け等も考える ・飲み物、おやつ等意見を取り入れて行っている。 ・本人の嗜好に合わせているがお酒やタバコは提供してい	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの残存能力を把握しながら排泄支援を行っている 一人ひとりの排泄パターンに応じ、その人の自己の力で排泄が出来るようにしている。 排泄表の記入やチェックによって声掛けや誘導を行っている 		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数に応じ職員数の関係で難しい 夜には入浴できないが朝から夕方までの時間帯では、好きなきときには入れる体制にしている。 		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの就寝における時間帯を考えている 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 様々な催しを企画し、年に一度お一人ごとの希望に添った各々の企画も実施している 一部の方のみ役割があり、他の方は何もせず 		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 認知度が高く、自己管理が不能にて大半を管理している 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのその日の希望に添っては、難しい 買い物等は、時折出掛けるも一部の利用者の方のみ年に一度行きたい所したい事をするスペシャルDAYを設けている 一年に一度実施している 	○	<ul style="list-style-type: none"> 全ての人がいけているわけではないので出来るだけ多くの人に出掛けてもらえる様にしたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> スペシャルDAYを行う事によって機会を作っている 本人の希望、ご家族の理解があれば、いつでも出掛けられる体制である 一部実施している(状態により) 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 希望される利用者様には、出来るだけ応えている。 一部の利用者様のみ電話の利用はされている 常に訪問は歓迎し、文書等でも訪問の依頼をしている 	○	レクリエーションで手紙を書いたりしたいと思う
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 会話が楽しめるような接待、空間作りを心掛けている 毎月でのご家族向けのニュースやお知らせ等で訪問を依頼している 		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に身体拘束を行ってはいない 柵、その他身体拘束を行う場合には、時間帯、場所などの詳細を書面にて承諾を得て、その都度記録をしている。 		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 例外についてはご家族に了解を得るようにしている。 一部の利用者様を除いて出来ている。 		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> 昼間の離設に対しての基本の動きがある。 夜間の定期的巡視がある 		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤などの危険なものは、鍵を掛けて保管している 		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 事故発生時は、報告書を作成し、職員全体で把握し、防止に取り組んでいる マニュアルもあり、ミーティングにて話し合いしている。 定期的データの収集 事故報告を定期的に行っている。 見守り、チェック、確認を心掛けている 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・応急手当の指示は、文書で配布されているが、定期的な訓練はされていない	○	・色んな状況に対応できるようにあらゆる場合を考えたマニュアルがあるといいと思う
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・地域住民がほとんどいない ・協力を得られるような働きかけは行えていない。 ・避難経路を掲示し、年に1～2回の避難訓練を行っている。 ・エレベーターの使用禁止 ・階段による避難方法などの指示を受けた		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・家族の訪問時、常日頃話し合い、現在の状況報告対応に努めている ・家具の配置等を考え日々の生活の中から得た情報を元に改善している	○	・完全に改善することは出来ないのか何かかならないものか
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日々の申し送りで対応している ・毎朝のバイタル測定、様子の変化にてバイタル測定、食事量、全ての様子変化において変わったことがあれば、看護職員、家族へ報告している。 ・カルテや日誌、連絡ノートを主に送りを行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・努めている	○	薬剤情報を見て辞典で調べて学ぶ時間を増やしたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・下剤を服用するときは、個々の状態に合わせて量を使っている。 ・一人ひとりの排泄表があり毎日チェック、便秘時の対応マニュアルあり、必要時は、医師・看護師の指示を仰いでいる。 ・水分の補給を十分に行っている。 ・食		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の口腔ケアや消毒をしたりしている ・週に一度義歯洗浄、毎食後の口腔内、清潔に保つため口腔ケアをしている	○	・定期的な歯科受診が出来ないか(往診等で・・・)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・水分量のチェックをしたり、時間を決めて水分を取っていただくようにしている。 ・毎日実施している ・毎食、全員の食事、水分チェック、食事摂取量が少ない場合、食べれる食物の提供 		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な予防接種あり ・食事前の手指消毒、食器の定期的な消毒 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・時々消毒をしている ・厨房一括管理、管理栄養士が行っている 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関を使用頻度が低く工夫されている部分がない ・玄関やロビーに花や植物を置き、エレベーター内には来所して下さった方々へのメッセージや案内等の掲示をしている。 ・玄関踊場にソファが用意しており、休息会話がもてる空間がある。 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の空間を改築、原型を残した部位が使用づらく、利用者からも声が上がっている。 ・室温や採光、照明、音など衛生的環境に十分配慮している 壁には、季節ごとの掲示物や利用者様の作品を飾ったりしている。 		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・共有空間の中では、思い思いに過ごせる様に努めている。 ・自分の定位置を持って生活をしている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・写真を飾ったりして工夫をしている ・寝具はご家族に用意していただいている。居室内の装飾についても自由に出来ていると思う		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・行っている ・就寝時の室温の調整、起床時の窓の開口にて空気の入替え等を行っている ・雨天時以外は、窓の開閉をしている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・いまだに段差の解消が解決できていない部分がある。 ・安全な中で機能維持と改善が見られるような生活を工夫している。 ・リビング、廊下に手すりが設置してある。 ・自主的に歩行、体を動かしているとき休憩できるソファ、畳使用のベンチが用意されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・出来る限り個々の能力を活かしてサポート的な対応の仕方をしている		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・時季による	○	・気候の良い日は、年に何回かは、施設回りの散歩を行っているが、もう少し機会を増やしたい

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="checkbox"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/>	①毎日ある
	<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度ある
	<input checked="" type="checkbox"/>	③たまにある
	<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input checked="" type="checkbox"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="checkbox"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現在の場所へ移転以降、アセスメントやケアプランの策定・評価には、十分に力をいれている。アセスメントでは、センター方式を用いアセスメントチーム（4名）からあらゆる角度で利用者様の立場に立ったプランを作れるようにしており、評価では一ヶ月毎に定期的に取り組み、柔軟な対応ができるようにしている。ご家族との交流においては、3ヶ月に一度家族懇談会を開き、職員とご家族の交流を経て、現在では、ご家族同士の交流へと転換しているところである。基本的な介護面としては、3大介護を重点的に行っている。排泄では、2時間毎の誘導や1時間毎の誘導など 入浴では、1日おきの人から毎日の人と、食事は、食事形態も柔軟に対応できるなど 一人ひとりの利用者様に合った方法で 個別的に取り組んでいる。工業地帯という立地条件ではあるが、隣のショッピングセンターを活かし、散歩しつつ買い物に出掛けられる特色も出せている。その人らしい生活をしていただけるよう、その人のペースを大切にし、理解して思いを共有できる羽陽に行動をなるべく束縛せず、自由に過ごしてもらえよう日々職員同士、上司と話し合いながら取り組んでいる。